有田ＩＣ―印南ＩＣ　４車線化工事が完成

ＮＥＸＣＯ西　盛大に祈念式典

ＮＥＸＣＯ西日本（大阪市北区、前川秀和社長）関西支社が進めていた湯浅御坊道路（有田ＩＣ―御坊ＩＣ）19・4㎞と阪和道（御坊ＩＣ―印南ＩＣ）8・7㎞の4車線化工事が完成し、12月26日、和歌山県田辺市のホテルで記念式典が開かれた。

この路線は片側1車線で、渋滞がたびたび発生。4車線化は、地元の悲願だった。定時性・信頼性・安全性など道路機能の強化とともに、災害時の通行止め期間の短縮が期待されている。

式典には、同社、同県、市町村長、国会議員、工事関係者ら約200人が出席。前川社長が「4車線化の完成後は、渋滞が起きていない。災害時などの交通確保も期待される」と式辞を述べた。

テープカットで４車線化工事の完成を祝福（NEXCO西提供）

また、仁坂吉伸・同県知事は「4車線化というチャンスを生かせるよう、一生懸命に頑張っていきたい」と挨拶した。

この後、テープカットとくす玉開披で完成を祝った。

建設業の人材確保・育成　22年度予算案の概要

（1面から続く）

※◆は建設業に特化した支援）

【人材確保】

◆建設事業主等に対する助成金による支援　68・4億円

・雇用管理改善や人材育成に取り組む中小建設事業主等に経費や賃金の一部を助成する。

・人材確保等支援助成金において、建設キャリアアップシステム等普及促進コース（仮称）を新設し、建設事業主団体が実施するCCUS技能者登録料等の補助やCCUS登録等に係る代行申請手続、就業履歴を蓄積するカードリーダーの導入等に対し支援する。

・人材開発支援助成金（建設労働者技能実習コース）について、建設キャリアアップカード登録者については賃金助成額を1・1倍にする。

◇ハローワークにおける人材不足分野のマッチング支援　44・4億円

・ハローワークに「人材確保対策コーナー」を設置する。

◆建設産業の働き方改革の実現　135百万円

○適正な工期設定・施工時期の平準化等による働き方改革の推進

令和6年から建設業にも罰則付き時間外労働上限規制が適用されることから、働き方改革と生産性向上等の実現のため、以下を実施。

・建設業の週休2日の確保状況等を実態調査し、好事例集の作成等を通じ、横展開を推進。

・全地方公共団体の入札契約適正化の取組状況を調査・公表し、「平準化統一フォーマット」の普及・「平準化カルテ」の整備を図るとともに、個別団体への改善支援及び進捗状況・取組の「見える化」等を通じた施工時期の平準化等を推進。

○建設技術者の働き方改革の推進

・建設現場におけるICT技術の活用状況及び今後の活用推進を踏まえた技術者制度の更なる合理化に向け、建設業界の実態調査を行うとともに、更なる合理化に向けた方策の検討及び実現に向けた課題整理等

◆建設キャリアアップシステム普及・活用等を通じた建設技能者の処遇の改善45百万円

・同システムを活用し、女性の入職及び定着を促進する取組を行う。

【人材育成】

◆中小建設事業主等への支援　5・2億円

・建設労働者育成支援事業　離転職者、新卒者、学卒未就職者等を対象とした訓練カリキュラムの策定、訓練生募集、職業訓練の実施、就職支援をパッケージで業界団体が行う事業を実施する。

◆建設分野におけるハロートレーニング（職業訓練）の実施　1・2億円

・建設機械等の運転技能だけでなく、パソコンスキル講習等と組み合わせたハロートレーニング（職業訓練）を引き続き実施する。

◇短期間で取得でき安定就労に有効な資格等の取得支援　26億円

・就職氷河期世代の方向けに創設した「短期資格等習得コース」において、短期間で取得でき、安定就労につながる資格等の習得を支援するため、業界団体等に委託し、訓練と職場体験等を組み合わせ、正社員就職を支援する出口一体型の訓練を行う。

【魅力ある職場づくりの推進】

◆建設業許可の申請手続等の電子化に向けた環境整備）300百万円

・建設業許可等の申請手続きを合理化するために電子申請システムを構築し、令和4年中に試行、令和5年1月より運用を開始する。

◇働き方改革推進支援助成金による支援　66億円

・中小企業・小規模事業者が時間外労働の上限規制等に円滑に対応するため、生産性を高めながら労働時間の短縮等に取り組む場合、中小企業や傘下企業を支援する事業主団体に助成を行う。

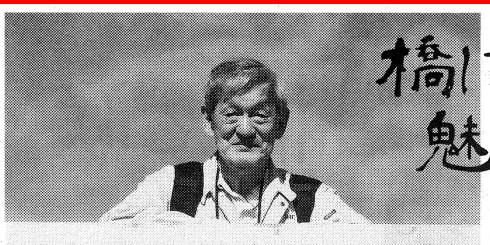
◆「つなぐ化」事業の実施　28百万円

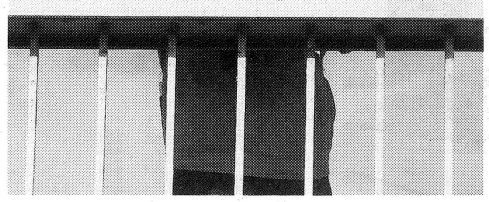
・若年者の建設業に対する理解や定着促進を図るため、高等学校（工業科、普通科）や高等専門学校の先生・生徒と建設業界がつながる機会として、出前授業や現場見学会等を実施する。

◆建設業における墜落・転落災害等防止対策推進事業　87百万円

・足場からの墜落・転落災害の防止対策の充実強化のための専門家による診断の実施、診断結果に基づく現場に対する指導・支援等を実施する。

橋に魅せられて





昨年末、沖縄のとよみ大橋で

補修技術設計

取締役

小出　博さん

デジカメを橋に持ち込んだ男

「デジカメを使った画像診断を橋に持ち込んだ男」と言われる。

1950年福島県生まれ。東京電機大学を卒業後、電子部品メーカーに就職したが、幼い頃からのカメラ好きとあって、ニコンに転職した。

とはいえ、担当はカメラでなく、レーザーで距離を測定する「光波測距儀」の開発・改良だった。しかし不思議なもので、それが橋との縁の始まり。市場が何を求めているかに敏感になり、技術職ながら営業的センスも磨かれたからだ。そこを見込まれ、会社がデジタルカメラの市場開拓を図った時、社長直轄のプロジェクト（PJ）チームに配属された。30年前になる。

PJのテーマの1つが、橋・土木。現在は見かけないDPEショップで当時、処理される写真の4割弱は土木分野だとみられた。一方、現場では橋脚の損傷状況の全体像をつかむため、紙焼き写真を1枚1枚つなぎ合わせていた。

どのメーカーも高性能カメラを開発したが、橋・土木分野は関係が薄く、食い込めないでいた。

「橋の現場にはどんなニーズがあるのか。それを解決するサービスは?」「パソコンの画面上で写真を処理できないか」

模索が続いた。着目したのが、デジカメで撮った画像からコンクリートのひび割れを抽出する診断支援ソフト「GS―1」。社内で開発されていた。「このソフトとデジカメを組み合わせれば、点検・調査・診断を一貫して支援でき、ニーズに応えられる」。

そう考え、企業や大学に提案し始めた。技術・営業リーダーとして、初めて赴いたある長大橋。桁高50ｍを超える地点で、長い望遠レンズを自ら手にした。

もとより、プロのカメラマンではない。試行錯誤の連続で苦労したが、10日間の作業が終わり、ソフトで抽出したひび割れ画像は目視を超える精度だった。

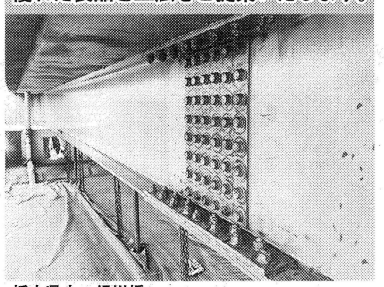
「うれしいというより、ホッとした」。

技術力が口コミで広がった。9年間で売り上げたソフトは750本に上る。

補修技術設計に移った今も、名古屋へ沖縄へと、忙しい日々。画像診断がいよいよ主役の時代に入ったからだ。

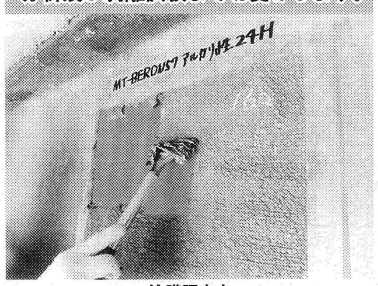
橋梁補修をより効果的な工法でより経済的に

★従来工法より機能的で経済性に優れた製品と工法をご提案いたします。



栃木県内・緑川橋
エポガードシステム工法（C B-080011-VR）施工

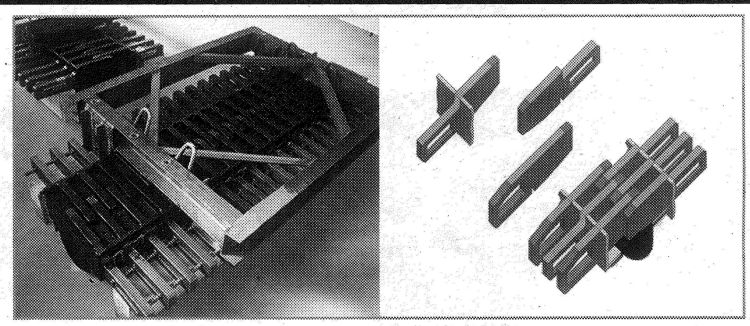
★有害物質塗膜調査は検体採取～分析及び剥離試験までお受けします。



塗膜調査中

〝橋梁補修のトータルアドバイザー〟
DAISIN industrialcompany
大進産業株式会社
http://www.d-sangyo.jp
本　　社　〒320-0014　栃木県宇都宮市東塙田 2-2-18　TEL：028-627-0868
首都圏営業部　〒107-0061　東京都港区北青山 2-7-20　TEL：03-4405-9290

新型登場
「ハイブリッドジョイント3L タイプ」
50 年以上の止水性・耐久性を実現。NEXCO 性能証明に合格
NETIS登録：KT-210067-A



・伸縮量 200 ～ 600 ㎜。最大遊間 1230 ㎜
・止水ゴム樋にファスナーを導入
・寒冷地での圧雪対策も完備
・他社製品と比べて、30%以上軽量化

橋梁用伸縮装置の調査・設計から製造・販売・施工まで
CRETEC クリテック工業
〒105-0004 東京都港区新橋 5 丁目 27-1 パークプレイス 6F
お問い合わせ・カタログ請求はこちら　info@cretec.jp
☎ 03-5403-7373　受付時間(平日) AM 9:00～PM 18:00